

# アートな川越 50

新河岸川に架かり、志多町と宮元町をつなぐ道灌橋。

この橋の欄干は、時の鐘をイメージしたような形になっています。また、橋の中央の両側には、太田道灌が和歌の道志すきつかけとなつたといわれる、「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」の歌が書かれたレリーフがあります。歌の周りには、市の花でもあるヤマブキがあしらわれています。

市内では珍しい、川越にゆかりのある人名が付いた橋。長さ十メートルほどの短い橋ですが、川越にちなむ物がたくさん見つかりました。

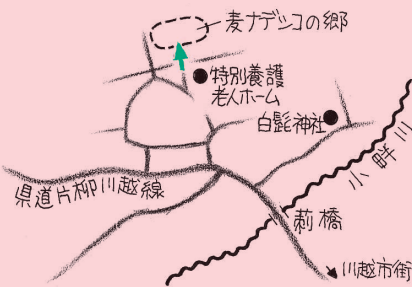


上・道灌橋の欄干  
右上・橋の中央にある和歌のレリーフ。ヤマブキの花を見ることができます

## 表紙

昨年の麦ナデシコ祭りの様子  
(下小坂)

花の摘み取りが楽しめる、麦ナデシコ祭り。ことしは、5月12日(土)・13日(日)に開催されます。



川越ならではの  
礼儀作法など

## 小江戸のならわし・その二 仲間入りする若い皆さんに対して

大阪・堂島の米相場を左右した横田五郎兵衛は、一面、商都の趣のあるまちでもあります。そんなまちで、志を抱いて新しく店を始める若い人たちのために、先輩の有力商店の人たちはさまざまな助力を惜しみませんでした。資金援助はもとより、住まいのあつせんや種々の力添えをして物心両面から支え、鼓舞する風習がありました。後年になって成功した商店主は、その時の借用証文を掛け軸にして、大切な家の祭りの際には先祖の肖像画などと共に飾り、恩義を末永く子孫に伝える風があるのも、その証の一つです。

\*市文化財保護協会会長・宮岡正一郎さんから伺った話を、広報室がまとめました。



## 川越城築城550年

川越城が築城されて550年目のことし、さまざまな記念イベントが行われます